

# 元日本記録保持者が自分史

女子円盤投げで約10年間、日本記録を保持し続けた元越谷市教育委員会体育課長の深井（旧姓八木下）てる子さん（67）が、自分史「わたしの事典 歩」（毎日文化センター版、非売品）をまとめた。選手時代の競技生活を中心にこれまでの人生を軽妙なタッチでつづっており、地元で話題となっている。

## 女子円盤投げ 越谷の深井さん

【飯嶋英好】

は新書サイズ・137ページで、発行部数は70冊。競技生活・家庭・職場に関する約90項目が「あ行」～「わ行」に分けて整理され、どこからでも読めるのが特徴となっている。加えて、門限が厳しかった大学の寮生活▽金メダルを取ったアジア大会（1970年バングラデシュ開催）の様子▽「などの興味深い内容も盛り込まれている。作品について、毎日文化センター自分史講座の藤田昌平講師は、「深井さんは『自分史が決める』という表現を使う。これは深井さんのメンタルの強さを示す名句だ」と賛辞を贈る。

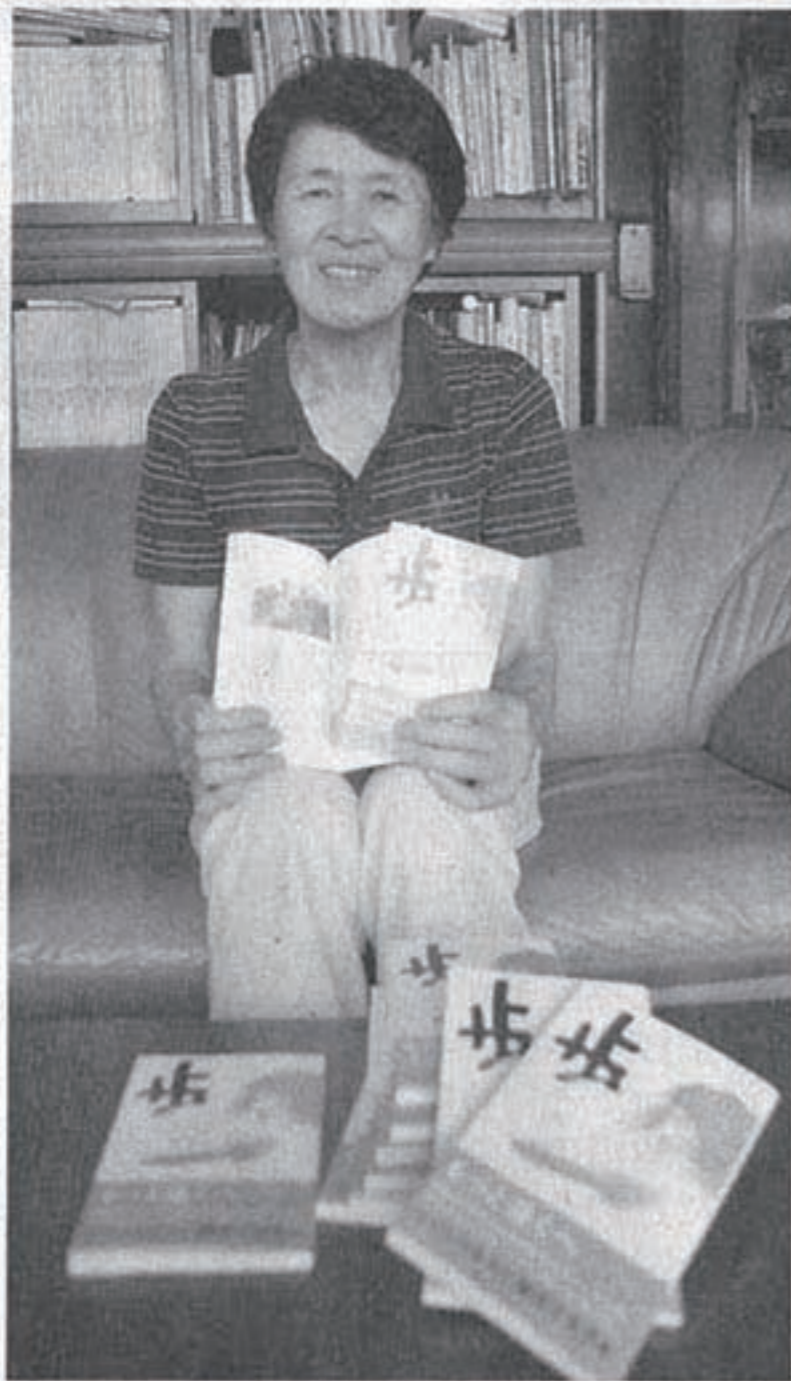
深井さんは、陸上競技の選手だった父親の影響で県立越谷高校時代から円盤投げ選手として活躍。日本女子体育大3年の時から日本陸上競技選手権大会で5連覇の偉業を達成し、さらに、越谷市役所に就職した1971年の東日本実業団大会では51歳28歳の日本新記録を出した。

この日本記録は80年に筑波大学生に破られるまで約10年間保持された。

72年に現役を引退、間もなく結婚して2女に恵まれた。2004年に市役所を退職後、

毎日文化センターで書き方学ぶ

## アジア大会での金などつづる



自分史を発行した円盤投げの元日本記録保持者、深井てる子さん

「娘や親戚に私の人生を伝えたい」との思いが募り、昨年末から毎日文化センター（東京・毎日新聞社1階）主催の「自分史講座」に通い、半年がかりで書き上げた。

「わたしの事典 歩」

文化センター自分史講座の藤田昌平講師は、「深井さんは『自分史が決める』という表現を使う。これは深井さんのメンタルの強さを示す名句だ」と賛辞を贈る。